

【別紙】

一般社団法人 日本ボクシング連盟 令和2年度 第9回理事会（緊急）別添資料
2021.1.9（土）21:05～ 22:55

会長挨拶：高校生にとっては重要な問題ですので、最後までよろしくお願いします。

1 議事の経過の要領及び議案審議の結果

1) 審議事項

・緊急事態宣言下における、今年度中の各種大会の開催可否について

仲間専務理事：緊急事態宣言が一都三県に現在発令されており、関西圏でも要請が出ている。3月に高校選抜大会・UJ大会が予定されており、緊急事態宣言下の中で、各予選会をどうするか？3月の大会が開催可能なのか？について、ご意見をいただきたい。これに先立ち、昨日に医事委員会、本日ブロック委員会を開催した。各理事からの意見を聞いてから、岩尾医事委員長から医事委員会の意見をいただく。ブロック委員会の意見は、中島ブロック委員長からいただきたい。また、篠原理事から、高体連ボクシング専門部理事会での協議結果の文書をいただいているので、ご意見をいただきたい。

内田会長：中島さん、関東の現状も含めてご説明をお願いします。

中島理事：関東高体連会長から、昨日、今回の緊急事態宣言発令に伴うこの大会について、自粛または延期に関するお願いの通知が届いている。先ほど、ブロック委員会でも協議したが、非常に厳しい状況なので、中止ではなく、延期という形で模索をしたいと話をした。9ブロックの内、5ブロックが延期を考えているとのこと。原因の一つとして、3月21日の本大会の動向が不明であること、申込〆切が2月上旬であることが難しいことであった。しかし、先ほど、2/26～28に〆切を延長することが出来るとの報告があったことから、各県連及び高体連と再度協議を行う必要がある。医事委員会から話しが出ているPCR検査について、専務理事にお伺いしたいが、これは義務なのかを確認したい。高体連の先生方と話をしたが、2月は試験などで忙しくなるので、大会運営に困窮を来すようなことを言われていた。これから先どうなるかはわからないが、大会を実行する方向でいるので、各ブロックでも代表を決めていくために努力しなければならない。

岩尾医事委員長：昨日、各ブロック医事委員会を開催し、内田会長と仲間専務理事にもオブザーバーとして参加して貰った。

各ブロックの現状は、

- ・九州は、県の非常事態宣言等により、3県の出場が困難でありブロック大会開催を延期
- ・中国は、コロナ対応を鑑みて中止
- ・四国は、12月開催を1月に順延するも開催困難
- ・関西は、健康管理、予防対策をしっかり行うことを徹底して、全ての大会を行う予定（高校生の大会は終了している。）
- ・北信越は、コロナ患者も少ないので開催予定
- ・東北は、北信越同様に開催予定
- ・北海道は、知事も厳戒態勢を強調しており、開催困難
- ・東海は、連休明けにも愛知県に非常事態宣言が出て、三重と岐阜の県知事は、愛知県に準ずると言っているため、開催は困難。

各ブロック医事委員長、内田会長、仲間専務も、何とか大会開催を考え色々意見が出た。

コロナは予防とか検査体制を取るときには、医学的根拠がない抗原検査ではダメで、全てPCR検査が必須となっている。

医事委員会は、連盟を守るということにおいても、自費で参加者全て（選手・監督・コーチ・審判等）PCR検査を受けていただく方針である。時期方法については、改めて検討する。72時間のどこを基準にするかを、理事会決定後に医事委員会で再協議する。

ブロック大会の開催については、各ブロックに任せる。

高体連の予選会開催困難における選手選出の方法については、非常時のための別の選出方法も認めるとのことなので、選抜を行うかどうかは、非常事態宣言明け（2/7）の患者数の動きを見て判断する。

初動の不備もあるので、医事委員会としては、選抜大会の開催自体がなかなか難しいと考えている。

内田会長：九州は、現在宮崎が緊急事態宣言、福岡、熊本が出る一步手前。新潟県は、県をまたぐ移動はダメという話が出ていた。

篠原理事：全国高体連ボクシング専門部では、選抜大会を開催の方向で考えている。今年度の大会開催については、開催するか否かより、感染防止に配慮した大会運営が重要課題であったが、この会議を行った時と現状は違うので、皆さんのご意見を伺いたい。色々な方向性があると思うが、各都道府県における選手選考は県内の話し合いで済むかもしれないが、ブロックからの代表となると、話し合いだけとか、これまでの成績だけとかで選考するのは困難である。それも踏まえて、皆さんのご意見を伺いたい。

池端議長：関東の状況や、ブロック委員の協議の結果、医事委員会、高体連の協議の結果を伺いましたが、これらを含めて審議を行いたいと思います。

中村理事：関東で1/23、24と予定していたものが延期となった。2月の大会開催は難しいと思う。まず、開催予定が神奈川県であったが、神奈川の会場は緊急事態宣言を受けて、3月頃まで使用が出来ない。もし開催するなら、別の都県を考えないといけない。緊急事態宣言が出ている以上、大会開催は無理である。緊急事態宣言が1ヶ月程度で解除と言われているが、解除されても使用できる会場があるかどうかという問題がある。うちの話にはなるが、大会とすると、都道府県教委が入ってくるのでそうとうハードルが高くなる。私自身は、諦め境地の域に入っていた。高体連の話にもあった、選考方法を拘らないのであれば、こういった事態なので、大会は難しいため、恨みっこなしでスパーリングをする方法を考えても良いかと思う。非常事態宣言解除後に会場を探せば、なんとか出来るかと思う。

全員がPCR検査となると、今までの想定になかったハードルが出来たと感じる。

仲間専務理事：開催県である徳島の状況と、現在の申込期限が2/12であるが、最大限どこまで延長できるか？

赤澤氏(徳島県)：徳島県の感染状況は落ち着いていて、ステージ1手前の「注意」である。

申込期限の延長については、個人的には3/1（月）までは大丈夫ではないかと思っている。旅行会社の許可を貰ってないので、来週確認後に調整する。

仲間専務理事：問題がたくさんある。まず、選抜をどうするか？UJ大会をどうするか？を別々に議論しないといけない。予選が出来ないから、大会を中止するのか？選抜大会が3月末に準備されていなければ、ブロック大会で終わりにするのか？そのような形に

すれば、ブロック大会を後ろに延期できる。3月末の大会のために、全ての予選会を間に合わせるようにするのかどうか？

UJ大会は、保護者のからみがあるので、開催するのかどうか？これらを議論しないといけないのかと思う。まず、議論を選抜に絞る必要がある。

UJ大会については問題が2つあって、保護者が付き添うので、会場への入場者が増える。PCR検査を免罪符とするならば、予算も増えるし、密を防ぐには問題が大きい。UJ大会まで含めて開催するとなると難しくなるのではないかと？

もう一つは、高校生は選抜大会で競技を終える選手が多いと思うが、UJの場合は小中学生なので、まだその後の競技会参加の可能性があるため、高校生の大会を中止するのは重みが違う。保護者まで会場に入れて大会を行うのは難しいと個人的には思う。

篠原理事：全国高体連で協議した内容の中で、予選会を開催できないブロックがある場合には、そのブロック自体が棄権するのでもやむを得ないとある。現在予選を終えているのは、関西ブロックだけだと思う。この状況で進めていって、全国選抜大会を開催すると決定したとしても、大会に出てくるブロックが1～3ブロックぐらいでは大会が成り立たないと思う。ブロック選出がなされて、選抜大会に出場できるブロックの数によって、開催の可否を考えるのも一つの考えである。

ちなみに、東北ブロックの予選は福島県で開催する予定である。ブロック大会止まりとなるかもしれないが、選手が今まで練習してきたことを考えてブロック大会を開催してあげたい。

内田会長：PCR検査を必ずするか、しないかを決めて欲しい。私も色々な人に相談したが、この緊急事態宣言の中でブロック大会を行うのであれば、日本連盟としては最低限PCR検査を行うことは当然であろうと指摘を受けている。顧問の先生にも数名に相談したが、健康第一であり、コンタクト競技であることから、バレーボールの例も含め、PCR検査は必要であろうという意見をいただいている。

岩尾医事委員長：関東連盟の医事委員長山口先生の後輩の先生が、全柔連の副会長をしている。シニアに関しては、PCRを練習及びクラスター及びコロナが出た場合の対処について、オリンピックを想定して行う。ジュニアに関しては大会もやらない。皆さんご存じのとおり、コロナはインフルエンザみたいに季節性ではなく、ずっとはびこっていて、今回の場合は初動に失敗しておりある程度蔓延している。潜伏期間1～2週間あって、致死率が低く罹患率が低い。これだけの人数が出ると結構大変だと感じている。2/7が終わった段階で、ほとぼりが冷めれば良いが、なかなか無理ではないかと個人的に思っている。これらを踏まえて高校生のことを考えなければならぬ。一方では、先ほど中村先生がおっしゃったように、スパリングはあくまでも練習なので、PCR云々の話は出てこない

ブロック大会でPCRを行わないでコロナが出た場合は、それ相応の責任を取られるのは、ほぼ確実である。では、PCRをやったからといって意味があるのかというと、医学的には全く意味がない。現状としては、一番正確な手段であり、病院も介護施設もこれを採用しており、一度コロナが出た施設には、保健所から毎週PCRを取るよう指導が出ているので、やらざるを得ない。

中村理事：ブロック選抜、全国選抜に対してPCR検査を行う話だが、今回の限ってということで良いのか？

仲間専務理事：緊急事態宣言下においてと認識して欲しい。

岩尾医事委員長：緊急事態宣言下における話であって、今後はwithコロナでやっていかなければなら

ないし、少しずつ事態も変わってくると思う。試合が出来るように我々も努力し、また、組織としても守っていくことをやって行かなければならない。

豊田事務局長：選抜大会開催にあたり、感染防止ということでスポーツ庁からの助成金を確保した。来年度の助成金の方針も出たが、一つの大会において10%の感染防止という助成金が付いて来ることが発表された。これからいかに感染防止しながら大会を進めていくかという方向でやっている。今回の大会を一つのメルクマールとして、いかに感染防止対策を取りながらやっていくかを、一つの事例を作っていく必要がある。

もう一つ、日本連盟が申請して持続化給付金200万円と家賃の補助金200万円をいただいた。予算はある程度確保できている。今回も地方の大会に配分することも出来るかと考えている。

岩尾医事委員長：PCRは郵送の物はすごく安いけれども、混んでいて結果がいつ帰ってくるかわからない。ちゃんと取りに来てくれて、翌日返してくれる旧三菱BCLという会社がやっているのは、1万円ぐらいらしい（通常を持ち帰りの場合、1.5万円～2万円）。そういう会社と連盟が交渉すると良いのではないかと。半年とか経つと、もっと安くなると思う。

豊田事務局長：強化委員会では、合宿に入る前に簡易キットでPCR検査をやっている。JOCに申請をして予算もおりている。（現在8千円ぐらいで出来ている。）

内田会長：これからPCR検査をするということを決めていくと思うが、大会を開催するに当たって、どこまでを対象とするのかという問題がある。選手、コーチ、セコンド、監督、審判、役員、どこまでを対象とするか？

仲間専務理事：医事委員会で協議しないとしけないと思う。具体例で話すと、医療機関の中でコロナの患者さんと濃厚接触した人というのは、マスクなしの近距離で15分以上接触した時である。コロナの患者さんの傍にいた時、マスクをしていて、通常の防護をしていたら濃厚接触とはならない。ただ、例外があって、普通のマスクでなく、唾やしぶきが飛ぶとダメだとされている。

レフリーは、マスクをしていても濃厚接触といわれる。選手、レフリー、選手と近距離にいるチーフセコンドについては、マスクをしていたとしても濃厚接触となるかどうかは医学的に話し合わないといけないが、通常の医学的に見ると同じ見方をされる。それ以外の距離を取っている人においては、マスクをしていれば濃厚接触者とは判断されない。会場に入って来る人全部PCR検査ということも出来るので、この3段階をどこまでにするか、予算のこともあるので、医事委員会で協議しなければならない。岩尾先生の言うとおりに、PCR検査をしたからといって感染を防止できるということではなく、免罪符的なものであるから、どこまで拡大したら免罪符ということになることを検討し、最小限で良いかと考える。

内田会長：豊田事務局長のPCRに関する予算配分について、関東と他のブロックでは人数が違うので、いくら出せるのかをハッキリとし、平等に配分しなければならない。まずは、PCR検査をするかしないかを決めた方が良いと思う。

私は、色々な人の意見を聞いたうえで、日本連盟としてはPCR検査が必ず必要だと思いますよと言いましたが、高校生だけでなく、大学生、社会人、小学生、中学生もいますので、信用の中で日本連盟としてPCR検査をした方が良いという意見を聞いています。

仲間専務理事：大会に臨むに当たり、選手を含む関係者、どこまで含むかは後日決めるとして、緊急事態宣言下において「PCR検査をして大会に臨む」の決を取るのが良い。その

のちに議論に入ればよい。

豊田事務局長：会長の言われる、どこまで使えるかは、持続化給付金200万円については、そっくり使えるかと思う。来年度以降は、先ほどお伝えしたとおり、10%の感染防止助成金がある。

篠原理事：PCR検査については、これからブロック大会を実施するところも該当するのか？ 該当するのであれば、各選手が各自で各医療機関において実施しなければならないのか？

豊田事務局長：今、ナショナルチームが受けている様に、簡易キットを各医療機関から送ってもらう方法でも良いのではないかと思う。個人では難しいので、どこかの医療機関と提携を結ぶとか、ブロックでまとめるとかでやって貰えたらと思う。

篠原理事：現状では、各自でやるのは難しいと思う。例えば、日本連盟から各県、各校にキットを送っていただいて返送する方法が現実的だと考えるが可能か？

仲間専務理事：医事委員会と考えていることが違う。簡易キットでやると、日数が掛かるので72時間以内とかの日数的に無理がある。岩尾先生の話は、各自が医療機関を受診してということだった。

首都圏だと比較的簡単だが、地方では難しいし、価格も高い。PCR検査については、話し合いにくいところがある。PCRやりましたというだけの話しであれば、唾液を採取する簡易キットで検査した結果を出すことになるが、日本連盟が簡易キットを購入して送るといふことになれば、財源がいくらあっても足りない。基本、自費で検査して貰う。大会に対しての助成にしかない。また、検体を日本連盟で扱うことは出来ない。

オリンピック時に選手村に入って来る選手のPCR検査も自費である。

岩尾医事委員長：大会を運営するには、48時間～72時間前の物を出さなければならない。郵送するものは五千円ぐらいで出来るが、いつ返送されるかわからない。先ほど言った、三菱BCLが取りに来てくれて、翌日結果を持ってきてくれる。この会社は、今名前が変わっているみたい。全国的にある会社なので、各ブロックの医事委員長の先生にお願いをして、確実に出る検査をするのが現実的である。決められた時間の中で、結果の出る検査機関を選定して貰うことになる。

仲間専務理事：ここで議論しても答えは出ないので、PCR検査を行うか否かの採決を取った方が良い。

篠原理事：PCR検査の義務付けを議決したら、検査をしない人は大会に参加が出来なくなる。PCR検査が足かせとなって、大会自体が開催できなくなることになるかもしれない。

必ずPCR検査を受けなければ大会を開催出来なくなってしまうのか？

仲間専務理事：そうです。大会を開催することは、PCR検査でここまで確認しているという状況下でなければ開催できないだろうということ。だから、PCR検査をやって、大会を開催しようということの採決を取る。前日の医事委員会の結果は、PCR検査をしないとダメというのが結論。

岩尾医事委員長：ボクシング連盟としては頑張っている方だと思う。全柔連はジュニアの大会は実施しない。シニアのみPCR検査を実施して大会を行う。できるだけ選手に試合の機会を与えたいという思いでブロック大会を行うときはPCR検査をお願いしたい。できない場合は別の選考方法を模索してもらいたい。都道府県を跨いで参集しコロナの感染があった場合は批判的となる。濃厚接触とはマスクをして15分接触した場合なので大会の場合は選手、監督、審判はPCRが必要である。

坂巻副会長：緊急事態宣言の対象は全国を意味するのか。

仲間専務理事：どこかが出ていけば感染が爆発する前兆なので、都道府県を跨ぐ大会を実施するに
辺り「日本国内のどこかの地域で緊急事態宣言が出ていけば」という認識である。

岩尾医事委員長：内閣府がどこかの地域を指定した段階でよいのではないか。

池端議長：日本国内、どこかの地域で緊急事態宣言が出されている状況においては、ブロック以
上の大会を行う場合は、選手・関係者にPCR検査を義務付ける。範囲や時間につい
ては医事委員会一任とすることについて反対の方は挙手をお願いします。

(反対1/21)

篠原理事：現実的に難しいと思う。

菊池理事：緊急事態宣言が解除されたら全国選抜大会ではPCR検査は実施しないのか。

仲間専務理事：今回の議決にはブロック大会も含まれているので全国大会は別にガイドラインを定め
てもよいのでは。

池端議長：賛成多数で議決します。

仲間専務理事：PCR検査の方法は医事委員会と事務局で検討します。委託も含め。

池端議長：全国UJを実施するかを審議に移ります。

内田会長：プロボクシング協会とも話をしたが保護者も同伴するのでUJは難しいのではない
かと思う。

後藤理事：関西ではブロック大会は行おうと考えているがPCR検査を受ければ可能か。

内田会長：保護者もPCR検査を受けることができるか。

仲間専務理事：医師としては困難だと考える。高校生の大会実施を模索する中で今回はUJまでは
厳しいかと思われる。

安川理事：保護者も入場はできない方向で考えているが。

内田会長：みなさん大会を開催したいがもしもコロナの感染があったら他方面にも影響を及ぼ
すのでUJは我慢してもらいたいと思っている。

吉沼理事：UJはルール上、試合毎に保護者の承諾印が必要となるが。

安川理事：会場内には入らないが保護者は付近には来ている。

池端議長：保護者の参加など、密が避けられない可能性が高く、またPCRをどこまで対象と
するかなどの基準設定も困難であるため、今年度のUJ大会はブロックも含めて中
止とすることについて反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし) 満場一致で議決します。

池端議長：続きまして全国高校選抜大会の開催についての審議に移ります。

内田会長：高体連からは1ブロックでも参加できない場合は中止という文章があったか。

中島理事：関東連盟では、大会中止の要件として、出場できない都県が1つでもあったらと
いう要望がある。

篠原理事：それは関東のみで全国では考えていない。

池端議長：先ほど出場できないブロックが多すぎると大会が成立しないというご意見もあつた
ので中止の要件を決めたい。

中村理事：今月末にもう一度、開催可否について最終の判断ができないか。

内田会長：3月1日までに判断するのは医事委員会にお任せしたい。

池端議長：では本日の時点で開催に必要な要件について決定したいと思います。

1ブロックでも欠けた場合は中止することに賛成の方は挙手をお願いします。

(賛成2/21)

3ブロックが欠けた場合は中止することに賛成の方は挙手をお願いします。

(賛成11/21) 過半数のためここで決定します。

池端議長：では議決を行います。

全国選抜の申し込みは3月1日まで延長してもらおう。現状では中止としないが、参加選手・関係者にPCR検査を義務付ける。最終的に3月1日までに医事委員会の医学的判断を待って最終決定する。また全体の3分の1にあたる、3ブロック以上が代表選出・参加が不可能な場合は大会を中止とするということに反対の方は挙手をお願いします。(反対1/21)

篠原理事：高体連としてはできるだけ開催の方向で考えているので過半数の5ブロックの欠場で中止を考えていた。

池端議長：賛成多数で議決します。

仲間専務理事：ブロック代表の選考方法についても議決しておく必要があるのではないか。

池端議長：全国高校選抜大会の代表選考の方法は各ブロックに一任することについて反対の方は挙手をお願いします。(反対意見なし)満場一致で議決します。

仲間専務理事：UJもスパーリング形式なら可能となるのか。

岩尾医事委員長：UJは難しいかと思う。完全にコロナが落ち着くまでは組織を守ることも必要かと考える。

菊池理事：大会中に発熱などがあった場合は隔離する場所を確保する必要がある。

岩尾医事委員長：基本的には大会の医事委員にお任せするのがよいかと思う。前もって地域の開業医の先生と連携することも必要である。

安川理事：ハイリスクの役員や審判は参加できないことも考えるのか。

岩尾医事委員長：罹患者は参加していないことが前提なのでそこまでは考えていない。

内田会長：今は我慢の時ですが皆さんで頑張ってください。

本日はありがとうございました。

以上